

妙法蓮華經。如來神力品。第二十一

爾の時に千世界微塵等の菩薩摩訶薩の地より涌出せる者、皆佛前に於て一心に合掌し尊顔を瞻仰して、佛に白して言さく、世尊、我等佛の滅後、世尊分身所在の國土、滅度の處に於て、當に廣く此の經を説くべし。所以は何ん、我等も亦自らは眞淨の大法を得て、受持・讀誦し、解説・書寫して、之を供養せんと欲す。

爾の時に世尊、文殊師利等の無量百千萬億の舊住娑婆世界の菩薩摩訶薩、及び諸の比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷・天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等の一切の衆の前に於て、大神力を現じたもう。

廣長舌を出して上梵世に至らしめ、一切の毛孔より無量無數色の光を放つて、皆悉く徧く十方世界を照したもう。

衆の寶樹下の師子座上の諸佛も亦復是の如く、廣長舌を出し、無量の光を放ちたもう。釋迦牟尼佛及び寶樹下の諸佛、神力を現じたもう時百千歳を滿ず。然して後に還つて舌相を撮めて、一時に警效し、俱共に彈指したもう。是の二つの音聲、徧く十方の諸佛の世界に至つて、地皆六種に震動す。

其の中の衆生、天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等、佛の神力を以ての故に、皆此の娑婆世界の無量無邊百千萬億の衆の寶樹下の師子座上の諸佛を見、及び釋迦牟尼佛、多寶如來と共に寶塔の中に在して、師子の座に坐したまえるを見たてまつり、又無量無邊百千萬億の菩薩摩訶薩及び諸の四衆の、釋迦牟尼佛を恭敬し圍繞したてまつるを見る。既に是れを見已つて、皆大に歡喜して未曾有なることを得。即時に諸天、虛空の中に於て高聲に唱えて言わく、

此の無量無邊百千萬億阿僧祇の世界を過ぎて、國あり娑婆と名く。是の中に佛います、釋迦牟尼と名けたてまつる。今諸の菩薩摩訶薩の爲に、大乘經の妙法蓮華・教菩薩法・佛所護念と名くるを説きたもう。汝等當に深心に隨喜すべし。亦當に釋迦牟尼佛を禮拜し供養すべし。

彼の諸の衆生、虛空の中の聲を聞き已つて、合掌して娑婆世界に向つて、是の如き言を作さく、

南無釋迦牟尼佛・南無釋迦牟尼佛と。

種種の華・香・瓔珞・旛蓋及び諸の嚴身の具・珍寶・

妙物を以て、皆共に遙かに娑婆世界に散ず。所散の諸物十方

より來ること、譬えば雲の集まるが如し。變じて寶帳となつ

て徧く此の間の諸佛の上に覆う。時に十方世界、通達無礙

にして一佛土の如し。

爾の時に佛、上行等の菩薩大衆に告げたまわく、

諸佛の神力は是の如く無量無邊不可思議なり。若し我是の

神力を以て、無量無邊百千萬億阿僧祇劫に於て、屬累の爲の

故に此の經の功德を説かんに、猶お盡くすこと能わじ。

要を以て之を言わば、如來の一切の所有の法・如來の一切

の自在の神力・如來の一切の祕要の藏・如來の一切の甚深の

事、皆此の經に於て宣示顯説す。是の故に汝等如來の滅後に

於て、應當に一心に受持・讀誦し、解説し・書寫し、説の如

く修行すべし。

所在の國土に、若しは受持・讀誦し、解説・書寫し、説の

如く修行し、若しは經卷所住の處あらん。若しは園中に

於ても、若しは林中に於ても、若しは樹下に於ても、若しは

僧坊に於ても、若しは白衣の舎にても、若しは殿堂に在つて

も、若しは山谷・曠野にても、是の中に皆塔を起てて供養す

べし。

所以は何ん、當に知るべし、是の處は即ち是れ道場なり。諸佛此に於て阿耨多羅三藐三菩提を得、諸佛此に於て法輪を轉じ、諸佛此に於て般涅槃したもう。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

諸佛救世者 大神通に住して

衆生を悦ばしめんが爲の故に 無量の神力を現じたもう

舌相梵天に至り 身より無數の光を放つて

佛道を求むる者の爲に 此の希有の事を現じたもう

諸佛警效の聲 及び彈指の聲

周く十方の國に聞えて 地皆六種に動ず

佛の滅度の後に 能く是の經を持たんを以ての故に

諸佛皆歡喜して 無量の神力を現じたもう

是の經を屬累せんが故に 受持の者を讚美すること

無量劫の中に於てすとも 猶故盡くすこと能わじ

是の人の功德は 無邊にして窮まりあることなけん

十方虚空の 邊際を得べからざるが如し

能く是の經を持たん者は 則ち爲れ已に我を見

亦多寶佛 及び 諸の分身者を見

又我が今日 教化せる 諸の菩薩を見るなり

能く是の經を持たん者は 我及び分身

滅度の多寶佛をして 一切皆歡喜せしめ

十方現在の佛 竝に過去・未來

亦は見亦は供養し 亦は歡喜することを得せしめん

諸佛道場に坐して 得たまえる所の祕要の法

能く是の經を持たん者は 久しからずして亦當に得べし

能く是の經を持たん者は 諸法の義

名字及び言辭に於て 樂説窮盡なきこと

風の空中に於て 一切障礙なきが如くならん

如來にょらいの滅後めつごに於おいて 佛ほとけの所說しよせつの經きようの  
因緣いんねん及び次第しだいを知しつて 義ぎに隨したがつて實じつの如ごとく説とかん  
日月にちがつの光明こうみやうの 能よく諸もろの幽冥ゆうみやうを除のぞくが如ごとく  
斯この人世間ひとせけんに行ぎようじて 能よく衆生しゆじようの闇やみを滅めつし  
無量むりようの菩薩ぼさつをして 畢竟ひつぎようして一乘じちように住じちゆうせしめん  
是この故ゆえに智ちあらん者もの 此この功德くどくの利りを聞きいて  
我わが滅度めつどの後のちに於おいて 斯この經きようを受持じゆじすべし  
是この人佛道ひとぶつどうに於おいて 決定けつじしようして 疑うたがひあることなけん